

沖縄観光は今、大きな転換点を迎えている。観光客数を競う時代から、地域全体の価値を高める「観光地域経営」への転換が求められている。

人口減少や少子高齢化が進む中、地域によっては生産力や消費力の低下が課題となつてい

る。地域を持続的に発展させるためには、地域外から新たな需要を呼び込み、その収益を地域経済へ還流させることが欠かせない。観光は、そのための重要な手段である。

本年4月、北部12市町村と北部地域観光協会、名桜大学を社員とする沖縄やんばるDMOが設立され、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいる。私たちが目指すのは「DMOが稼ぐ」のではなく「地域が稼ぐ」



中村 靖

論壇

仕組みをつくることである。では、それをどう実現するのか。私は人の流れ、時間、地域の価値を広げることが重要だと考えている。人の流れを「南から北へ、西海岸から東海岸へ、島から島へ」と広げ、観光の恩恵を地域全体へ届けること。繁忙期だけに依存するのではなく、食、祭り、伝統芸能、そして人々の営みがある。その土地で受け継がれてきた暮らしそのものが世界に誇る地域資源である。沖縄やんばるDMOでは北部広域市町村圏事務組合から観光客アンケート事業を引き継ぎ、そのデータを観光地域経営に活用している。分析からは、地域

大きな転換点迎えた沖縄観光

「地域が稼ぐ」仕組みを

オフシーズンの魅力を高め、1年を通して安定した観光需要を生み出すこと。そして、観光客数だけを追うのではなく、滞在時間や消費額、満足度を高める「量より質」の観光地域経営へ転換することである。沖縄には、美しい自然だけではなく、地域ごとに異なる歴史や文化、残る旅を生み出すのである。

経験や勘は地域の大切な財産である。しかし、それにデータやAIという新たな視点を加えることで、地域の魅力や課題を見える化し、より効果的な観光地域経営につなげることができ

る。AIやデータは目的ではない。地域を豊かにするための手段である。観光の目的は観光客を増やすことではない。地域を豊かにすることである。地域が連携し、それぞれの魅力を磨き、地域外から得た収益を地域へ還流させる。その積み重ねが、人々の暮らしを支え、文化を未来へ受け継ぎ、「また来たい」「誰かに勧めたい」と思われる地域を育てていく。それこそが、私の考える観光地域経営であり、沖縄の未来につながると信じている。(名護市、沖縄やんばるDMO代表理事兼CEO、66歳)